



Dr's Message

いきいき健康術 第105回

町立病院・診療所の医師や専門職員が健康情報をお届けします。

こう しょう

『マダニ咬傷の予防』



まえだ たけまさ 前田 武昌 病院長(外科)

気候が良くなり、畑や田んぼでの作業や山菜採りに山歩きなど、アウトドア活動が増える季節になりましたね。そこで注意しなければならぬのが、野生生物による被害です。クモ、蜂、蛇、ムカデ、山ヒルなど種々ありますが、今回はマダニについてお話します。

マダニは家ダニと違い、体長二〜三ミリと比較的大きく、肉眼でも確認できます。普段は葉っぱの裏側などにおいて、人や動物が通り葉に触れた時にくつきまします。その後、皮膚の柔らかい所を探して移動し、牙を皮膚に突き刺してゆっくりと吸血します。放っておくと一週間ほどかけて吸血し、七〜十ミ〜くらいにまで大きくなります。問題は、マダニがウイルスや細菌

菌の媒介をして特定の感染症の原因になることです。特に最近はSFTSウイルスを媒介することが分かり、大きく報道されました。他にも表の病気を媒介することが知られています。ダニを発見したら直ちに除去しましょう。

アルコール綿で除去

マダニが皮膚にかみついている間にダニの唾液がセメントの様に固まり、牙が抜けにくくなっていますので、乱暴に抜くと牙が皮膚に残り、皮膚科などで除去しなくてはなりません。アルコール綿(焼酎やウイスキーでも可)をしぼら〜く押しつけ、ピンセットでそっと引き抜くと抜けやすくなります。

かまれないためには

マダニ咬傷の被害を予防するには、手足を露出させない、虫よけスプレーを使用する、木や草にむやみに接触しないなどの対策がお勧めです。また、野山で活動した後、原因不明の発熱や下痢、発疹が現れたら、感染症の可能性もありますので、内科や皮膚科を受診しましょう。

マダニが媒介する感染症

1 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

原因	SFTSウイルスによる、マダニの保有率は5〜15%
症状	嘔吐(おうと)・下痢・頭痛、最悪の場合は死に至る

2 ライム病

原因	ネズミや鹿からマダニを介してボレリア(細菌の一種)が感染して起こる。2日以上かまれていると感染のリスクが上がる。
症状	倦怠・悪寒・嘔吐(おうと)・頭痛・関節痛 など

3 日本猩紅熱

原因	リケッチアの感染による
症状	風疹に似た症状、発疹・発熱、まれに死亡



病院と診療所の看護師、コメディカルのユニフォームを10年ぶりに一新しました。